

デング熱

国立国際医療研究センター病院国際感染症センター

忽那 賢志

(聞き手 齊藤郁夫)

齊藤 デング熱についてうかがいます。

2014年の夏に日本でも流行しましたが、どのぐらいの患者さんが出たのでしょうか。

忽那 2014年にデング熱の患者さんが162人、診断されています。

齊藤 これは何十年ぶりですか。

忽那 70年ぶりに診断されたデング熱の症例になります。

齊藤 この前は太平洋戦争中にあったということですか。

忽那 そうですね。太平洋戦争中に西日本で流行していたのですが、その後は70年間、全く報告がなかったので、70年ぶりの流行になります。

齊藤 日本では久しぶりということですが、世界的にはどうなのですか。

忽那 世界的には、熱帯、亜熱帯を中心に世界中で感染者が出ていまして、推計ですが、年間3億人ぐらいの感染者が毎年出ているといわれています。

齊藤 これは蚊に刺されるのですね。

忽那 そうですね。ネッタイシマカという蚊と、あとは日本にもいるヒトスジシマカ、主にその2つの蚊によって媒介される感染症です。

齊藤 日本の場合はだいたい夏に蚊が活動しますね。

忽那 やはり蚊が多い時期、ヒトスジシマカが増えてくるのがだいたい5月からで、10月にはかなり少なくなるのですが、そのあたりが流行する可能性がある時期になるかと思います。

齊藤 熱帯地方の暑い国では通年性ということになりますか。

忽那 蚊が越冬、冬を越えてずっと存在しますので、熱帯地域だと年中流行しています。

齊藤 これはウイルスによるものですか。

忽那 フラビウイルスという種類のウイルス属に属するデングウイルスというウイルスになります。

齊藤 臨床経過としてはどんなことになるのですか。

忽那 蚊に刺されて、だいたい3〜

7日ぐらいたってから、突然高い熱が出て、あとは頭痛です。時々目の裏が痛いとおっしゃる患者さんもいますが、頭痛と、あとは関節痛で発症するのが典型的な症状です。

齊藤 一見、夏風邪みたいな感じになるのですか。

忽那 風邪のような症状、全身症状はあるのですが、気道症状、咳とか、のどが痛いという症状はかなり少なく、頭痛とか関節痛、発熱だけという方が多いです。

齊藤 通常、熱が出ると、解熱薬を使いますが、何か注意はありますか。

忽那 デング熱の場合は、血小板がすごく下がったりして出血症状が現れることがありますので、その場合にNSAIDsなどを使うことで出血症状が助長されることがあります。原則として、デング熱と診断された場合はNSAIDsは使わずに、アセトアミノフェンを使ったほうが良いといわれています。

齊藤 アセトアミノフェンを使うと、熱は下がりますか。

忽那 使ったときは一時的には熱が下がります。

齊藤 しかし、また発熱して、けっこう長く続くのですか。

忽那 だいたい平均5～7日間、熱が続くといわれています。中にはもっと、1週間以上、熱が続く方もいら

っしゃいます。

齊藤 血液検査をやるとどのようなことがわかりますか。

忽那 デング熱が疑われた場合には、血液検査をして、末梢血の検査では白血球と血小板が下がっている頻度が高いので、そこからデング熱を疑うことになるかと思えます。

齊藤 血小板はかなり減るのですか。

忽那 ほとんどの方で10万を切ることで多くて、中には1万を切るような、非常に強い血小板減少が起こる方もいらっしゃいます。

齊藤 一見、夏風邪で、治療抵抗性の場合には、今やデング熱も鑑別診断の一つということになりますか。

忽那 今後も流行が起こる可能性がありますので、夏にあまり気道症状のない、高い熱が続くような方では、デング熱も鑑別診断に加えていただくのがよいかと思えます。

齊藤 確定診断はどうやって行うのですか。

忽那 確定診断は、一つはPCRで行うことによってデングウイルスの遺伝子を検出する方法があります。これは保健所を介して地方の衛生研究所などで検査をしていただくこととなりますが、もう一つはデングウイルスの成分であるNS1抗原という成分を検出することでも診断できます。これは2015年6月から保険収載されましたので、保険診療で検査することができます。

齊藤 診断された場合には報告するのですか。

忽那 4類の感染症になっていますので、診断した場合は保健所に届け出ていただくことになります。

齊藤 2014年が162人ですが、2015年はまだいないのですか。

忽那 国内で感染したという方はまだいらっしゃいませんが、ただ、海外で感染して日本で診断されたという方はこれまで以上のペースで報告されていて、輸入例自体は非常に多く診断されています。

齊藤 重症化があるといわれていますね。

忽那 デング熱の症状は、一つは血小板が下がって出血症状が出ることと、あとは血管漏出、胸水がたまったり、腹水がたまったり、浮腫が出たりというような症状なのですが、出血症状とか血漿の漏出症状が非常に強く出ることによって、デング出血熱という病態になって重症化することがあるといわれています。

齊藤 重症化はどんなタイミングで起こるのですか。

忽那 一般的には熱が下がる前後です。デング熱はだいたい1週間ぐらい熱が続きますので、5～8日目ぐらいのタイミングで重症化することがあるといわれています。

齊藤 重症化して腎不全、DICなどになるのですか。

忽那 デング出血熱という病態になると、中にはDICを起こして多臓器不全に至る方もいます。腎不全や肝不全、そういった多臓器不全にまで至る患者さんもいらっしゃいます。

齊藤 全身管理が非常に重要だということですね。

忽那 そうですね。

齊藤 2014年は死亡例はあったのですか。

忽那 国内のデング熱の患者さんで、デング出血熱になられた方がお一人いらっしゃったのですが、その方も幸い無事に回復されていますので、亡くなられた方はいらっしゃいません。

齊藤 一度デング熱になって、2度目になるとどうなるのですか。

忽那 デングウイルスは1～4型まで、4種類あることが知られていて、一つのタイプには一度かかると、もうその型にはかからないのですが、それ以外の3つのタイプにはもう一度感染することがあるといわれています。その場合に、2度目の感染の場合に重症化するリスクが1回目よりも高くなるといわれていまして、研究によると、100倍近く重症化するリスクが高くなるという報告もあります。

齊藤 熱帯地方に仕事等でしばしば行く人は気をつけないといけないですね。

忽那 現時点ではワクチンがありませんので、蚊に刺されないように、し

っかり虫除けを使って防蚊対策をしていただくのが一番現実的な予防策になるかと思います。

齊藤 世界的にはかなりの数の人が罹っているということで、ワクチンもつくられているのですか。

忽那 今、デングワクチンというのも幾つか種類があるのですが、一番開発が進んでいるのは第Ⅲ相試験まで行われていまして、2015年になって「ニューイングランドジャーナル」に2つ報告が出ていました。近年中には実際に使えるようになるのではないかと思います。

齊藤 それを流行地の人に投与する。

忽那 ヒトと蚊とヒトの間でサイクルする病気ですので、まさに流行地で感染症を減らすことが世界中の流行の減少につながるのではないかと思います。

齊藤 日本オリジンのデング熱は2015年はまだということですがけれども、海外から帰ってこられた方でデング熱の人はどのくらいいるのですか。

忽那 もう100人以上、海外で感染して日本で診断されたという方がいらっしゃると思いますので、そういった方から国内の流行につながることも十分考えられます。早めにデング熱と診断して、その方に日本国内で蚊に刺されないように十分注意していただくのが一番大事かと思います。

齊藤 そういう方が日本に戻ってきて、その人が蚊に刺されて、その蚊が別の人を刺して感染させることがあるのですね。

忽那 そうですね。2014年の流行も海外でどなたかがウイルスに感染して日本で蚊に刺されて、その蚊がウイルスを持つようになって、ほかの人にうつしていったと考えられますので、最初に持ち込む人をいかに早く診断するかが重要かと思います。

齊藤 これから注意していかないといけない病気の一つですね。

忽那 そうですね。

齊藤 どうもありがとうございました。